

# KLIMT A VIENNESE

# SCHNITZLER

# FANTASY Á LA



# LA MANDIÈRE DE

19世紀末、ウィーン。時代に嫉妬されたひとりの天才画家がいた。

# クリムト

ジョン・マルコヴィッチ

ヴェロニカ・フェレ サフラン・パロウス ニコライ・キンスキー スティーヴン・ディレイン サンドラ・チュッカレッリ

監督・脚本:ラウル・ヒュース 製作:ディエーター・ボホクト 撮影:影絵館リカルド・アロウ・グイサ(A.E.C. A.D.E. A.R.C.)

美術監督:エロノール・ラウフ 衣裳:バーギット・フックナー 2006年11月オーストリア/フランス/ドイツ/イギリス合作 | 97分 | カラー | 35mm

アメリカン・グイスタ | Dolby SRD | 原題:Klimt | 後援:オーストリア大使館、ワーナー代表部 | 配給:メディア・スタジオ

[www.klimt-movie.com](http://www.klimt-movie.com)

# 美神を描き続けた画家、 グスタフ・クリムト。

「エロス」と「タナトス」、クリムトが描いた究極の愛。

19世紀末、オーストリア。

時代より遥かに先を行ったひとりの天才画家がいた。——グスタフ・クリムト。

彼の絵を語るには忘れてならない言葉がある。それは「エロス」だ。官能と情熱に満ち溢れた世界、あでやかで豊かな色彩、描き続けた「<sup>命の</sup>ファム=ファタル」……。

彼の描く女性にはなまましいほどの肉感をたたえながら、恍惚の表情を浮かべてさえている。「モデルに触れないと描けない」画家は、触れることで対象から何を導き取り、感じ、キャンバスに向かっていったのか。

当時、ウィーンには彼の子どもが30人もいたという。

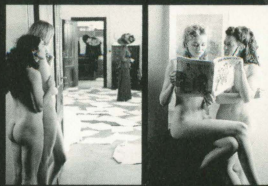
文化の象徴「<sup>ゼツェンション</sup>ウィーン分離派」とウィーン・ルネッサンス。

この時代は芸術の爛熟期だった。衰退の一路をたどるオーストリア・ハプスブルク家をよそに、その文化は次々と伝説を産み落としていった。精神分析の親であるジークムント・フロイト、近代建築の祖オットー・ワグナー、交響曲・歌曲の大家グスタフ・マーラー、12音技法の創始者アルノルト・シェーンブルク、そしてクリムトによって才能を見出されたエゴン・シーレ。1897年、クリムトを会長とした若い芸術家集団「<sup>ゼツェンション</sup>ウィーン分離派」が誕生した。彼らが生んだ新しい流れは絵画にとどまらず、建築、工芸、デザインにまで及び、世紀末ウィーン文化の象徴ともなった。1900年パリ万国博覧会において「哲学」で金賞を受賞し、仏アル・ヌーヴォーの先駆者ともなったクリムトだったが、パリでの賛辞は故郷ウィーンでは“ウィーン文化全体に泥を塗るひどいスキャンダル”と罵倒されてしまう。それは、タブーとされていた裸体、妊娠、性描写をこどもげに描いたクリムトに対する、時代からの嫉妬だった…。

クリムトと旅する  
19世紀末ウィーン文化。

クリムトに扮するのはその演技に絶大な信頼を寄せられているジョン・マルコヴィッチ。久々の主演で夢と現の狭間に身を置いた画家の危うい精神世界までも、見事に演じきっている。監督・脚本は「見出された時—「失われた時を求めて」より—」のラウル・ルイス。鬼才との呼び声高い独特の演出、寓意に満ちたカメラワークはまるでクリムトが描いた絵のように煌めきを放っている。

また、クリムト本人がデザインを手がけた衣装の再現や「クリムト」のために作られた100点を超える衣装の数々、そして19世紀末のカフェハウスのインテリアなど、細部にいたるまで当時を意識した世界観はまさに美の洪水。クリムトを通して私たちが絢爛豪華な世紀末のウィーンへと誘ってくれる。



出演：ジョン・マルコヴィッチ | ヴェロニカ・フェレ | サフラン・パロウズ | ニコライ・キンスキー 監督・脚本：ラウル・ルイス  
2006年 | オーストリア・フランス・ドイツ・キルス合作 | 97分 | カラー | 35mm | アメリカン・ウィスタ | Dolby SRD | 原題：Klimt

後援：オーストリア大使館、ウィーン代表部 配給：メディア・スーツ

www.klimt-movie.com

## 秋、19世紀の扉が開く！

特別鑑賞券¥1,500(税込) 絶賛発売中！——劇場窓口、都内プレイガイドにて

●劇場窓口でお買い求めの方には、クリムトが愛した金箔入りあぶら取り紙をプレゼント！(限定)

当日料金：一般¥1,800 | 学生¥1,500 | シニア¥1,000(税込)

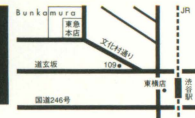
渋谷・東急百貨店 本店ヨコ

Bunkamura ル・シネマ

03 (3477) 9264 <http://www.bunkamura.co.jp>

Bunkamuraを変えるオフィシャルサプライヤー

信濃印刷 HITACHI 東急電鉄 TOCUL



定員制・入替制 お立ち見及び上映開始後のご入場はできません。前日までに混雑状況をご確認の上お出かけください。